

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名		武雄市立武雄中学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である						
1 前年度 評価結果の概要		・リーディングDX事業に係る研究指定を受け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に取り組んだ。次年度もさらに推進し、フォーサイト手帳の活用と合わせて、主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。 ・発達支援の生徒指導に取り組み、組織的かつ細やかな事業対応を行った。特別支援教育と教育相談の充実が生徒の健やかな心身の発達につながるよう連携を強め、生徒理解に基づいた生徒支援をさらに推進する。 ・地域行事への参加、地域人材の活用などでキャリア教育の充実を行い、全学年を通した系統的な「総合的な学習の時間」の充実、地域密着の防災教育等を通じて、郷土愛の醸成を行う。 ・学力の向上につながるICT機器を活用した授業改善、働き方改革、生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動について、引き続き、重点課題としたい。								
2 学校教育目標		高い志と誇りを持ち、共(友)に学ぶたくまשיき生徒の育成								
3 本年度の重点目標		①キャリア教育の一層の充実を図り、PDCAサイクルを生かし、学ぶ意義を理解させる。 ②出番と役割を与え、承認する「発達支持的生徒指導」を実践する。 ③教職員が健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。								
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目										
		重点取組		具体的取組		最終評価				
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
●学力の向上		○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実	○ICTを効果的に活用して、主体的に授業に取り組んでいると回答した生徒70％以上 ○フォーサイト手帳を活用して見通しをもって生活していると回答した生徒70％以上		・業績評価において授業改善のための評価指標を立て、授業実践を継続的に行っている。 ・朝の会と帰りの会でフォーサイト手帳を活用して生徒に見通しと振り返りを日々継続して取り組んでいるが、7月の回答は59.3%であったので、活用について更に研修を深める。 ・ICTを効果的に活用して、主体的に授業に取り組んでいると回答した生徒96.2%であった。	B	・ICTを効果的に活用して、主体的に授業に取り組んでいると回答した生徒は96.9%で、成果目標の70%上回っている。また、友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいる。と回答した生徒は、94.2%であり、このことから、主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実につながっていると考えられる。 ・フォーサイト手帳の活用促進について職員研修を行った。今後も指導と評価について充実を図る。	学力向上Co. 研究主任 LDX担当 ICT教育担当		
		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○支持的風土を醸成する取り組みをしている教師80% ○「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80%以上	・学級活動の充実を図る。実態に応じて構造的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、計画的に行うことで、よりよい人間関係をつくる。 ・生徒会活動や学校行事等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、認め合う場を設定する。	B	・支持的風土を醸成する取り組みを行っている教師が90.2%。また友達に対して思いやりの言動をとっていると答えた生徒が92.8%であり、学活や道徳の時間、担任を中心に各学年の実態に応じてよりよい仲間づくりを継続的に行っている。 ・自分の出番があって楽しいと答えた生徒が78.3%で目標指数を下回っているので合唱コンクールや体育大会を通して生徒の出番を増やしていきたい。	A	・中間評価より支持的風土を醸成する取り組みを行っている教師が90.2%、また最終評価では友達に対して思いやりの言動をとっていると答えた生徒が94.6%であり、学活や道徳の時間、担任を中心に各学年の実態に応じてよりよい仲間づくりを行うことができたので今後も継続したい。 ・自分の出番があって楽しいと答えた生徒が最終評価では81.5%で目標指数を達成することができたので学校行事等を通して今後も継続して生徒の出番を増やしていきたい。	道徳主任 人権・同和教育担当 生徒会担当 特別活動担当	
●心の教育		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒90%以上 ○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等）について組織的対応ができていると回答した教員100%		・毎月第3木曜日にいじめアンケートを実施する。 ・アンケートに記載された内容はも漏れなく聞き取りを行い、複数教職員で早急に対応する。 ・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。 ・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施する。 ・臨場指導を行う。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100% ・「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒93.7% ・毎週の生徒指導部会で、いじめの認知や支援・指導についての共通認識を図ることができた。生徒に寄り添った聞き取りや早急な対応を、引き続き徹底していく。 ・いじめ対応に関する研修会については、9月末に実施予定。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100% ・「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒93.4% ・教員および生徒の回答は、中間評価とほぼ同程度の評価ではあった。しかし、否定的回答をする生徒がいることから引き続き早期発見、早期対応の徹底と未然防止に努める。 ・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施することができた。	生徒指導主事
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上		・生徒の学習活動においては臨場指導を行い、評価方法を工夫して生徒に伝える。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を期間や指導方法を示して計画的に行う。 ・各種体験活動では、生徒に見通しと学びの振り返りを取り入れた活動を行わせる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は92.2%で、目標値を上回った。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は78.8%で目標値を下回った。 ・引き続き学校行事等を通してキャリアパスポートを活用し見通しから振り返りを行う。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は94.6%で、目標値を上回った。 ・「将来夢や目標を持っている」と回答した生徒は76.4%で目標値を下回った。 ・系統的なキャリア教育に取り組むことができるように、具体的な検討が必要である。	進路指導主事
		○教育相談体制の充実	○不登校生徒6.0%以下	・教育相談部連絡会を週に1回開催し、気になる生徒に対する初期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。 ・スクールカウンセラーの活用を工夫し、全生徒への支援を充実させる。	B	・現在不登校生徒約3%であり、目標指数内であるが、不登校傾向の生徒は増えている。今後も各担任や養護教諭、SC、SSW、別室支援員、訪問相談員、教育相談担当、管理職との連絡体制を整えて、より一層の迅速な対応を心掛け、不登校生徒を増やさないようにしたい。また、完全不登校の生徒たちへの働きかけがより充実するための方法を考えていきたい。	B	・週1回の教育相談部会を実施し、不登校、不登校傾向生徒の対応を検討することができたが、不登校生徒が約6%であった。不登校生徒ひとりひとりより関係機関につなぐ努力をしているが、保護者との連携が難しい家庭についてはそれが難しかった。 ・各担任、養護教諭、管理職、別室支援員、訪問相談員、SCとの連絡体制は整っており、相互の連絡がよくできていた。	教育相談主任	
		●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒93%以上 ○朝食をとって登校する生徒93%以上	・食事、健康に関する調査の実施 ・食育だよりの発行 ・食育にかかわる授業実践	A	・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は90.6%と目標値を下回っていた。 ・朝食をとって登校する生徒は91.1%であった。 ・食事健康に関する調査を6月に実施した(全学年)。野菜摂取に関するアンケートを実施した(1年生)。この結果をもとに、9月以降、食育にかかわる授業実践を行っている。 ・食育だよりは毎月発行している。給食の時間には教室を訪問し3分程度の話をしている。	A	・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は91.8%と目標値を下回っていたが、中間値より1.2%上回っていた。 ・朝食をとって登校する生徒は91.1%であった。来年度は朝食について重点的に取組を行う必要がある。 ・食事健康に関する調査を11月に実施した(全学年)。6月に実施した結果と比較したところ、13項目中10項目において割合が増加した。 ・食育だよりにて授業を実施した。また、講師を招き講話をしていた。だくなど行政と連携しながら食育を行った。食育だよりは毎月発行している。	栄養教諭 給食主任	
●健康・体づくり		○健康の維持・増進	○「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒87%以上		・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上とすることを目安として健康増進を図る。 ・保健だよりを発行する。 ・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。	A	・睡眠時間を6時間以上とれている生徒が全学年平均で92.2%と目標を上回っていた。今後も引き続き睡眠の大切さを継続して伝えていく。	A	・保健部の活動で「早寝コンテスト」を行った。 ・私は、睡眠時間を6時間以上とっている。」と回答した生徒が全学年平均で88.8%と目標を上回っていたものの、中間評価よりも3.4ポイント減少していた。個別指導の継続に加えて、授業実践や保健だより等を活用していきたい。	養護教諭 保健主事
		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・管理職は業務記録表(タイムカード)やヒアリング等をもとに相談や指導を行い、時間外労働時間を月45時間以内にするとする具体的な業務改善を推進する。 ・働き方改革プロジェクトチームを立ち上げ、業務改善策を提案している。	B	・8月は順守できた。業務記録表やヒアリング等をもとに相談や指導を行い、定時退勤日の声掛けを行った。今後はウェルビーイングの考えを取り入れた業務改善などについて研修を行う。 ・主任会に業務改善策の議題を設定し、アイデアの共有に努めた。今後、取り組みの実施につなげる。	C	・ウェルビーイングに係る研修動画や資料を提示し、職員会議で紹介できた。主任会でアイデアの共有を行い、業務改善に取り組んだ。 ・業務改善に係る職員アンケートの質問項目14、15について肯定的回答が63.0%と88.9%であり、前年度または中間評価から向上した。しかし、4割程度の職員が月45時間以上の時間外労働をしている現状である。引き続き、業務改善に取り組むたい。	管理職	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		○適正な部活動の運営	○「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランスを図った部活動運営を行った」と回答した教師95%以上		・部活動運営計画に則り、休養日を設定する。 ・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施。	C	・適正な部活動運営をしている教員が91.2%で目標を下回っている。引き続き、適正な部活動運営を行っている。	C	・「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランスを図った部活動運営を行った」と回答した教師が87.0%と中間から7.1ポイントも下回る結果となった。生徒、保護者とともに部活動の在り方について協議し、参加大会の厳選などを行っていく必要がある。	部活動担当
		○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し活用する。	A	・特別支援に関する専門性が向上した職員は92.2%で、目標を達成することができた。今後2回の研修を計画している。 ・教育支援計画、指導計画の共有方法について、検討する。	A	・最終評価は90.7%で、目標値の80%を超え、昨年度末よりも上回っている。今年度は新しいツールを導入し、アセスメントや支援計画の作成等で、教師間の情報交換の機会が増えた。また、外部講師を招いた研修会を充実させることができた。 ・支援計画、指導計画を指導や支援に生かしているようにしたい。	特別支援教育Co	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者		
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
○高い志と誇りを持つ教育の推進		◎自らの生き方を考え、郷土愛を育む教育活動	○「この街に生きる自分の進路・生き方についてよく考えることができた」と回答した生徒80%以上		・学年の段階に応じ、地元各界のゲスト・ティーチャーに学ぶ（講話・活動等）機会を設ける。可能な限り、「武雄のよい所」に帰着するよう仕組む。 ・フィールド・ワークを含む調査活動や情報収集活動に取り組む、得られた成果を様々な手段で表現する活動を計画し、実践する。	B	・中間アンケートでは、昨年度の数値は越えられたが、指標に対しては-4.8ポイントで届いていない。工夫改善の求められるところであるが、2学年の「職場体験」中止(台風のため)が痛い。当該の学年にあつては善後策の策定が急がれる。 ・3学年にあつては、SDGsを題材としながら、「調べ学習からレポートまとめへ」を超え、「継続して取り組んだ行動の記録」に取り組ませる。	B	・質問16、17に対する肯定的な回答が、1年生に比べて2、3年生が高くなっている。2年生に実施している「職場体験」の効果が大きいと判断される。学校外の社会人に学ぶ機会を拡大できないか。PTAクラスや研修部と連携した、新たな活動(時間)とそれを支える支援者拡大の方法を創出した。 ・3年生の「調べ学習を超えて“行動”へ」は奏功した。上記のことに結めて考えたことである。	進路指導主事 総合学習担当
		○危機の未然防止	○安全な生活環境の確保	○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒85%以上		・安全点検・避難訓練を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に対する意識を高める。 ・防災教育を実施する。 ・生活部の保護者と連携し、年に3回程度朝の交通指導を行い、交通事故の未然防止につなげる。	A	・校内の安全点検を確実にし、危険箇所は放置しないようにして事故防止に努めていると回答した教職員は100%であった。 ・武雄中学校で安心して安全に生活できていると、回答した生徒は、95.5%であった。	A	・校内の安全点検を確実にし、危険箇所は放置しないようにして事故防止に努めていると回答した教職員は96.3%であった。 ・武雄中学校で安心して安全に生活できていると、回答した生徒は、96.5%であった。 ・火災や不審者の避難訓練を行い、防災意識を高めた。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望		・リーディングDX事業に係る研究指定を受け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に取り組んだ。次年度はフォーサイト手帳の活用を主軸として、主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。 ・特別支援教育と教育相談の充実が生徒の健やかな心身の発達につながるよう連携を強め、生徒理解に基づいた生徒主体の仲間づくり、学校づくりをさらに推進する。 ・地域行事への参加、地域人材の活用などでキャリア教育の充実を行った。次年度は、全学年を通した系統的な「総合的な学習の時間」の充実、生徒、保護者、地域の三者連携による特色あるカリキュラムを通して、郷土愛の醸成をさらに推進する。 ・学力の向上、働き方改革、生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動について、引き続き、重点課題としたい。								